

65 田中彌性園の古文書・書画

町¹⁾ 泉寿郎・小曾戸 洋・田中祐尾³⁾¹⁾ 二松学舎大学東アジア学術総合研究所²⁾ 北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部³⁾ 田中外科医院

田中彌性園には、古医書のほかに少なからぬ古文書・古書画資料が残されており、彌性園の医学が醸成された江戸中〜後期の京坂文化圏の遺品として、注目に値する。今回、その全資料を調査することができたので、田中氏宛名家書簡を中心に、ここにその資料の一部を紹介する。

① 初代曲直瀬道三自筆・切紙「悪脈之再察」元龜二年九月下瀬 洛下雖知苦慮盍静翁曲直瀬道三 徳蔵院宛

② 初代曲直瀬道三自筆・切紙「察狐魅之状・禳小児驚風之神法」元龜二年九月吉日 道三 徳蔵院宛

③ 尾藤二洲書簡「華簡拝読、其後ハ絶而御音信も不

承候所、彌御平安奉御入、欣慰之至ニ御座候。此度菅生東行ニ付、佳品共預御惠贈感亦不少候。菅生事ハ折節弊廬人少ク候ニ付、先ハ差置申候。どふやら志もある様二見へ候。全ク賢契年来之御提携ゆへと存候。猶逐々出精上達致し候様ニと存候事ニ候。明日書封出し候様申候ニ付、鳥渡御答迄ニ草々如此ニ候。老懶多事、万御海容可被下候。四月廿九日 田中祐篤様 尾藤良佐」

④ 貫名崧翁書簡「本月十日御発之御弔詞、十五日到着申候。先以秋冷動候処、御揃御万福に御入被成奉賀候。然者拙文御潤筆と御座候金子壹両貴辺製木綿一反御寄贈被下、慥ニ収手申候。甚御丁寧之儀其上調法之御品共、忝御謝申候。松林上人より之一書も御座候而、近日御上京と承候故、日々相待候ても、今以御尋も無之候へ共、何れ面上申上之儀、別書差出不申候。宜敷御伝へ可被下候。右上人上京見合せ居申候ニ付、遅々二相成候。草々。八月廿八日 貫名泰次郎 田中祐徳様

追啓、前書中ニも申進候様相覚候。何卒御碑面も御

碑文之所も、さつと二ても御すらせ申度所希二候。何方二ても是非搦本ハ參候儀二て候。此段所希二御座候。以上。」

⑤貫名菘翁書簡「冷氣益加候処、御万福奉賀候。先考御墓表御すらせ被下一覽申候。如何致候てや、一字罷落候し有之候故、認遣候。早々御加へ可被下候。此字無候ては、濟不申候。猶後信可承候。草々。十月十二日即刻 貫名生 田中国手

田中緑窗翁墓○此一字 妻あまりくひちかひたり。下の女、此所二而上の中二より―此前より少し二ても―直に成候様、此左よふ御直させ可被下候。」

⑥頼三樹三郎書簡「兩度御手紙被下致拜見候。三本本月波へ御招宴被下候よし、御厚情忝奉存候得共、明日より無抛下坂仕候ゆへ、彼是都合も有之、忙了仕候。乍併折格之御思召立、何卒暫時成とも罷出申度、いろいろ相考申候儀二御座候。唯今一寸參申候人有之、其人と談候儀有之、其様子次第、一寸成とも參上可致候。併必々御待ハ被下間敷、御快酌可被成下候。勿々頓首。何卒どうかいたし、一寸參申度候。呉々独考仕候事二

候也。田中進太郎様 頼三樹八郎」

このほか、秋山玉山・池大雅・稻生若水・伊藤仁斎・伊藤東涯・伊藤蘭嶋・宇野明霞・江村北海・奥田尚斎・奥野小山・小野蘭山・貝原益軒・片山北海・葛子琴・亀井南冥・祇園南海・木村兼霞堂・五井蘭洲・古賀精里・後藤良山・榊原霞沼・佐野山陰・柴野栗山・多紀元堅・都賀庭鐘・十時梅厓・伴林光平・中井蕉園・中井竹山・中井履軒・服部南郭・平沢旭山・藤本鉄石・松岡玄達・皆川淇園・三宅石庵・村瀬栲庭・室鳩巢・梁川星巖・梁田蛻巖・湯浅常山・頼春水らの書画・書簡が残されている。

上記資料を紹介するとともに、彌性園の医学と八尾地方の医学教育が、懷徳堂・混沌社・古義堂などの京坂の有力な学塾とどのような関係を有していたかについて、考察を加えたい。